

令和4年度
大阪・関西国際博覧会政府開催準備事業
（日本館の理解促進と大阪・関西万博の
機運醸成等を図る事業）
実 施 報 告 書

令和6年3月

有限会社戸田商事

【目次】

目次

1. 業務概要	3
(1) 目的	3
(2) 概要	3
(3) 業務内容	3
2. 各業務の実施状況	4
(1) 機運醸成に向けたコミュニケーション事業の実施及び効果検証	4
1-1. イベントの開催概要	4
1-2. ロゴの制作	8
1-3. 全体及び各会場の実施概要	9
1-4. 告知・広報	21
1-5. アンケート集計	23
1-6. 業務実施の成果と課題	32
(2) 全国の市区町村における特徴的な持続可能な取り組みの事例収集及び機運醸成プロジェクトの自走に向けた仕組み作りの提案	33
2_1. 事例収集	33
2_2. 機運醸成プロジェクトの自走に向けた仕組み作りの提案	39

1. 業務概要

(1) 目的

2025 年に開催される大阪・関西万博の成功に向けては、開催国の政府館として来場者への訴求力が高いパビリオンを出展することが必要不可欠であり、訴求力の高いパビリオン出展には、明確な出展コンセプトと、それを具現化する手法が一体として求められる。そこで令和 3 年度、2021 年 4 月に策定した基本構想を具体化するため、「2025 年大阪・関西万博政府出展事業検討会議」にて日本館のあり方等を議論の上、基本計画を策定した。

令和 5 年度においては基本計画を踏まえ、全国各地における様々なコミュニケーション施策によって会期前からの日本館のコンセプトの浸透を図り、質的に有意義な関係人口の増加を図る。こうした取り組みを通じ、参加者の万博に対する認知度や参加を通じての意識変容の有無について調査し、会期前から会期中、会期後にかけて万博に関連したプロジェクトが日本全国各地で自走的に行われる状況の構築に向けた実証と提言を行う。

(2) 概要

本業務の概要を次に示す。

- 1 業務名：令和 4 年度大阪・関西国際博覧会政府開催準備事業
(日本館の理解促進と大阪・関西万博の機運醸成等を図る事業)
- 2 発注者：経済産業省 商務・サービスグループ 博覧会推進室
- 3 受注者：有限会社戸田商事

(3) 業務内容

全国 5 カ所で地域づくり、ローカルプロジェクト、SDGs に関心の高いローカルプレイヤーを編集長に選任して「万博未来編集部」を発足。編集部員（参加者）は若年層を対象に、オフライン 25 名、オンライン 25 程度を募集する。

日本館基本構想クリエイターである『ソトコト』編集長・指出一正が各地の未来編集部を訪れ、各地のローカルプレイヤーを交えて 2～3 時間程度のトークセッションと編集会議を 5 会場で開催。オンラインを駆使したワークショップを通じて編集会議は編集部員それぞれの「つくりたい地域の未来」を考える時間とする。日本館の進捗を踏まえた連動企画を付加することで、より日本館のコンセプトを理解してもらい大阪・関西万博への機運醸成を図っていく。

合わせて、全国の市区町村における特徴的な持続可能な取り組みの事例を収集し、機運醸成プロジェクトの自走に向けた仕組み作りを提案する。

2. 各業務の実施状況

(1) 機運醸成に向けたコミュニケーション事業の実施及び効果検証

1-1. イベントの開催概要

各地でのイベントを、以下の内容にて実施した。

●名称

大阪・関西万博 日本館×ソトコト「万博未来編集部ローカルツアー2024 with コミュニティ」

●目的

- ・日本国際博覧会協会の PR コミュニケーションとの相乗効果を図るため、全国 5 県で実施。万博開催地から離れた地域も含め、大阪・関西万博への機運を高める。
- ・ローカルプレイヤーや有識者といった多彩な大人との交流を通じ、「人生にはたくさんの選択肢や可能性がある」という気づきや、「身近な所から未来は自分で作れる」という自己肯定感や自己効力感が得られることで、未来のローカルプレイヤーを目指すきっかけを提供する。

●対象者

大阪・関西万博が開催される 2025 年以降の日本の未来を担うであろう、概ね 18 歳～39 歳。オフラインは会場となる 5 県および周辺地域在住者、オンラインは全国を対象とする。

●定員

オフライン 25 名、オンライン 25 名（先着順）

●日程・エリア・登壇者

エリア編集長として、地元のまちづくり等に精通し、参加者同士のつながりを生み出すローカルプレイヤーに協力いただいた。

	開催日	エリア	登壇者 会場
1	2/22 (木)	島根県 出雲市	牧知子さん（クラシノオト代表） 指出一正（『ソトコト』編集長） 醗酵文化研究所
2	2/28 (水)	山形県 長井市	長沼真知子さん（長沼合名会社） 指出一正（『ソトコト』編集長） 旧長井小学校第一校舎
3	3/3 (日)	栃木県 宇都宮市	中村周さん（ビルトザリガニ代表） 指出一正（『ソトコト』編集長） ゴールドコレクションビル 4 階

4	3/6 (水)	香川県 三豊市	古田秘馬さん（瀬戸内ビレッジ株式会社代表取締役社長） 指出一正（『ソトコト』編集長） 瀬戸内暮らしの大学
5	3/10 (日)	奈良県 生駒市	吉田田タカシさん（トーキョーコーヒー代表） 指出一正（『ソトコト』編集長） e. f. t. 生駒校

●タイムスケジュール（第1回～第5回共通）

時間 (分)	内容
15	受付
10	開会／主催者・講演者挨拶
5	オリエンテーション
45	エリア編集長とゲストクリエイターによる「地域の未来を編集する」トークセッション
	エリア編集長、指出氏のトークセッションを通じて、地域課題や未来を考えるための視点を提供しワークショップのための下地作りを行う。 ・指出氏より自己紹介・万博・日本館の基本構想について・会場を選んだ理由紹介（10分） ・エリア編集長 活動紹介（10分） ・トークセッション（25分）
5	グループワーク説明
	5人程度1グループになり、グループ内で自己紹介をすることで、初対面同士の緊張を和らげ、関係づくりを行う。
30	「つくりたい地域の未来」を考える編集会議（グループワーク）
	【自己紹介・グループ内での感想の共有】（10分） 5人程度1グループになり、グループ内で自己紹介をすることで、初対面同士の緊張を和らげ、関係づくりを行う。グループ内で参加者同士がトークセッションの感想を共有することで、多様な視点や考え方があることに気づいてもらい、グループワークでの思考の幅を広げる。 【グループワーク】（20分） トークセッションや感想共有を通じて得られたイメージをもとに、イラストを使って自分の住む地域の未来像である「ローカルみらいプラン」を検討する。ネットブラウザにてグループのメンバーで町を共有し、全員で閲覧・作業を行う。 ・人、まち、エネルギー、食などの事柄について、2030年そしてそれ以降の未来の町ではどうなっていたらよいかをワークに落とししていく。自分たちが住む町に現状は何があって、何が足りないか。あってもらいたいものは何かを議論した上で進める。 ・自分たちが作成した町のどの部分がSDGsの17項目にあたるのか、アイコンをワークシート上にプロット（1項目に絞るのではなく、なるべく多くのゴールを達成できるプランを目指す）。 ・イラスト設置の他に、いろんな意見にできる限り対応できるようにしたいので、吹き出しや看板で補足予定。その町での生活が生まれるようにセリフや気持ちなども記入してもらう。

	【編集長・ゲストクリエイターの役割について】 受講生たちの質問やアイデアに受け答えしながらも受講生全員の発言を促し、多様な意見が出るようにする。
55	グループ発表・講評・記念撮影
	1 グループ 3 分程度で発表、3 分で講師よりフィードバック。1 グループ 6 分*最大 10 グループを想定。 ワークショップの活動を振り返り、経験に意味づけを行い、次に向けたアクションを促す。
	閉会

1-2. ロゴの制作

集客に向けた告知等のため、ロゴを制作。

万博未来編集部 ローカルツアー 2024 with コミュニティ／logo

万博未来編集部
ローカルツアー
2024 with COMMUNITY
EXPO FUTURE EDITORIAL DEPARTMENT LOCAL TOUR

万博未来編集部 ローカルツアー 2024
EXPO FUTURE EDITORIAL DEPARTMENT LOCAL TOUR

万博未来編集部 ローカルツアー
EXPO FUTURE EDITORIAL DEPARTMENT LOCAL TOUR
2024

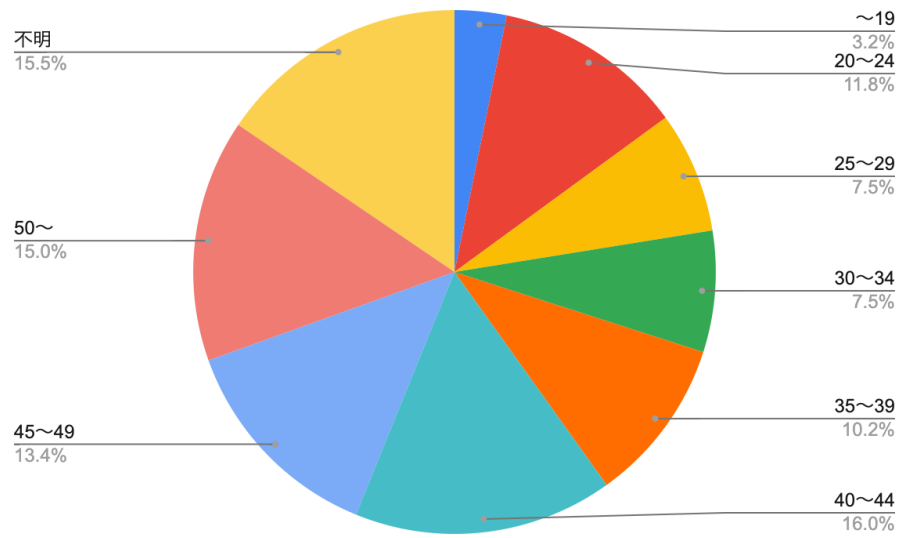
広告運用告知等
横長バナーなどの場合は
この形で運用
with コミュニティの部分は
タイトルとリードにテキスト原稿として
入れ込むルール

1-3. 全体及び各会場の実施概要

【全体】

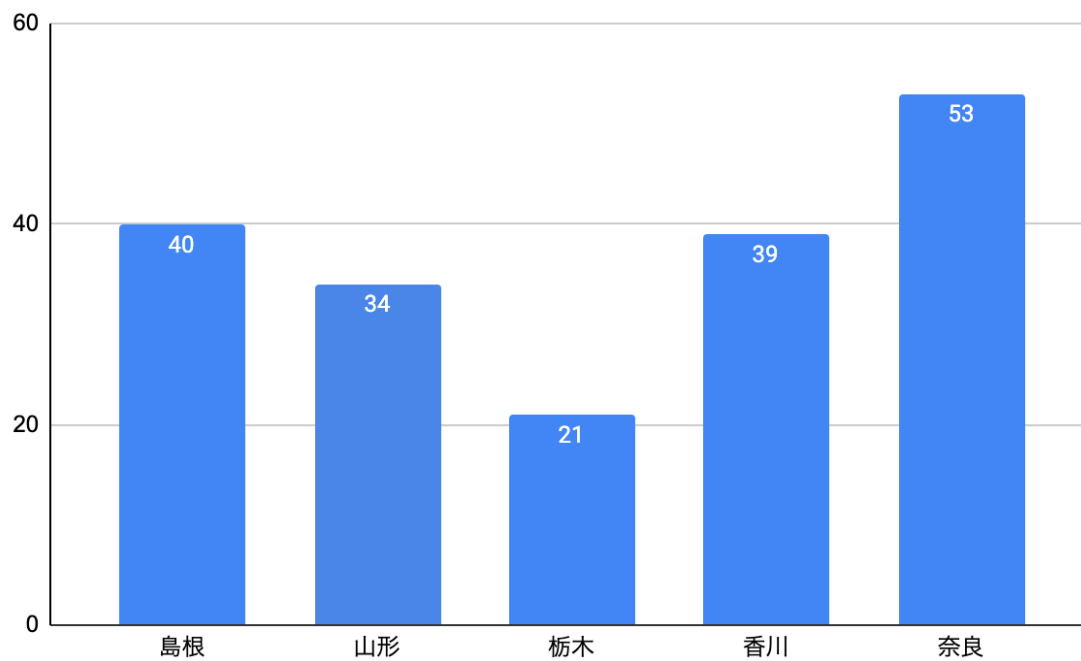
- ・全国5カ所で合計 187 名のお申込をいただいた。
- ・申込者のうち、39 歳以下が占める割合は 40%となった。
- ・申込時点ではオフラインとオンラインはほぼ同数であったが、参加率はオフラインが高かった。

<年齢別>



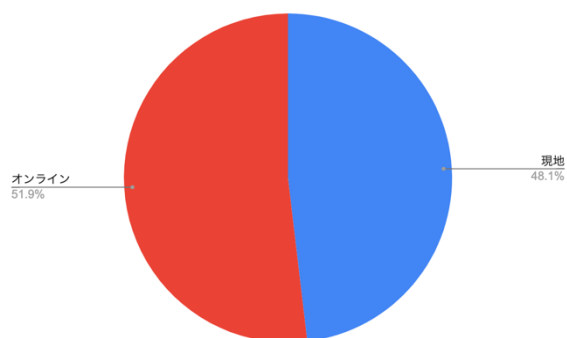
<地域別>

申し込み: 島根 40 山形 34 栃木 21 香川 39 奈良 53



<参加形態別>

申し込み: オフライン 90 オンライン 97



各回の実施の様子は以下のとおり。

【第1回（島根県出雲市）】

日時 : 2024年2月22日（木）18:30～21:00
登壇者 : エリア編集長 牧知子さん（クラシノオト代表）
指出一正（『ソトコト』編集長）

会場 : 醗酵文化研究所
申込者 : 40名（オフライン16名・オンライン24名）
トーク概要 :

牧氏による醗酵文化研究所での多様なイベントなどの紹介を受けて、素敵な面白い人が集まる場をどう作るのかというトークが展開。牧氏曰く「最初からこういうふうにしたいというのはなかった。こんなことできませんか？という声を受け入れて今がある。大事にしているのは常にフラットでいること」。その結果、名前のとおり、菌の醗酵のように人の醗酵が起こる場になった。自分だけでハンドルを握っていないことがローカルプロジェクトにとって非常に大事と言う話に参加者もうなずいていた。

以下、感想より抜粋

- ・同じグループの方とも短時間ですが、交流できて、それぞれの方の想いに触れられて楽しかったです。時間が短かったので、まとめるのが難しかったです。
- ・オンラインでこれだけできるのがおどろきでした。
- ・これまで内容をよくわかっておりませんでした、万博のことに関心が出てきました。
- ・いろいろな方と知り合い、今まで万博について関係無いと思っていましたが、身近に感じる事が出来て良かったです
- ・こういう自分のこと、自分の暮らす町の事、我が国の事、みんなで考えて意見を交換できる機会は楽しいと思います。
- ・オンラインで初対面の方といきなり仲良くなるのは難しいのでグループワークは、もう少し打ち解ける時間が欲しかったです。



トークセッション



会場の様子



グループワーク後の発表



集合写真

【第2回（山形県長井市）】

日時 : 2024年2月28日（水）18:30～21:00
登壇者 : エリア編集長 長沼真知子さん（長沼合名会社）
指出一正（『ソトコト』編集長）

会場 : 旧長井小学校第一校舎
申込者 : 34名（オフライン16名・オンライン18名）
トーク概要 :

長沼氏の、家業として受け継いだ、夫・子どもたちと取り組む酒造りのトピックスからスタート。長沼氏は、未来につながるキーワードとして「子ども」を挙げた。「自分も父親の姿を見て、家を継ぐことを決心した。私たちが全力で楽しんで酒造りに取り組む姿を見れば、子どもも続いていくと思う。5年後はまだ模索しているかもしれない、10年後は光が見えていてほしい。30年後は私たちがつくるお酒のまわりに、みんなが長井っていいまちだよと今よりもっと思えるようになっていたい」と未来のヴィジョンを語った。

以下、感想より抜粋

- ・日本酒酵母の話から未来の話へとつながっていった、自分の住むまちや地域の宝ものについての気づきになった。知らないうちに触れている文化の中に、未来へつないでいきたいものが隠れているのかもしれないと思いました。
- ・万博に関わることや、理解がなかったので、今日のイベントを機会に幅広く知っていきたくと思いました。
- ・万博について、こんなにも身近に感じられたこと、仲間といっしょに考えられたことは、とても勉強になりました。
- ・山形の教育にぜひ活かしてもらいたい。
- ・地元に根付いた人と、外の人たちとの意見交換がとてもいい時間だった。
- ・多世代、他地域の方々の「未来」を聞くことができ、優しい未来が想像できた。
- ・ハイブリッド開催で多種多様な参加者のみなさんと一緒に学びを深められたこと、未来のまちについて考えられたことが新鮮で嬉しかったです。



エリア編集長・長沼さんの講演



グループワークの様子



グループワーク後の発表



集合写真

【第3回（栃木県宇都宮市）】

日時 : 2024年3月3日（日）15:00～17:30
登壇者 : エリア編集長 中村周さん（ビルトザリガニ代表）
指出一正（『ソトコト』編集長）
会場 : ゴールドコレクションビル4階
申込者 : 21名（オフライン8名・オンライン13名）
トーク概要 :

中村氏による、人と生き物の共生を掲げる、釜川沿いでの数々のプロジェクトの紹介から始まり、まちづくりの醍醐味について話が展開。「重視するのは、200年以上耐えられるかまちづくりか。とはいえ、200年後はどうなっているかわからないので、エリアにある思想、文化、組織をどう育てていくか」。未来につながるキーワードには「切実さ」を挙げ、「面白さ、楽しさも大事だが、切実さが重ならないとなかなか動いていかない。日常の地続きの未来を作っていく。30年後は次世代にバトタッチできる体制ができていたらいい」と語った。

感想より抜粋

- ・ 高校3年間宮カフェでバイトしていたのもあり、まちづくりに興味がありました。いつものまちが変わる様にさみしさとワクワクがありながら自分にもできることがないかなと考え、いい機会をえられたなと思います。
- ・ トーク内容も素敵でした。特に「リジェネラティブ」という言葉と「持続し続ける事が果たして良いのか？」という視点は気づきをいただきました。
- ・ 宇都宮のまちづくりのとりくみを知れて、ワクワクしました！またみなさんとのグループワークで様々なアイデアにふれて、視野が広がった感覚です。宇都宮のまちの今後を見守りたいし、関わってみたいです。
- ・ 面白い会で交流がもう少し長くできれば良いなと思いました。
- ・ オンラインでしたが、有意義な日曜午後になりました。



グループワークの様子



グループワークの様子



グループワーク後の発表



記念撮影

【第4回（香川県三豊市）】

日時 : 2024年3月6日（水）18:30～21:00

登壇者 : エリア編集長 古田秘馬さん

（瀬戸内ビレッジ株式会社代表取締役社長）

指出一正（『ソトコト』編集長）

会場 : 瀬戸内暮らしの大学

申込者 : 39名（オフライン23名・オンライン16名）

トーク概要 :

古田氏による、共助のプロジェクトが次々と生まれる三豊で今何が起きているのかのプレゼンテーションからスタート。三豊の面白さは、「検討がない、やるの一本。多世代にチャレンジャーがいて外交的な人も多く面倒見が良い。ベンチャーのように挑戦できるのが魅力」。未来のヴィジョンをどう捉えるか？30年後は？の問いに対しては「未来は今の連続でしかない。全力でやっているから次が見える、本当に必要なものを紡いでいく。30年後もあえて描かないが、to be、良い状態かを問えているか。今日の夕日良かったよねと今と変わらず言え合えていたら大丈夫」と語った。

感想より抜粋

- ・グループワークが楽しかったです。地域の人々と多世代でつながることができて、またいろいろと話し合える場があると楽しいと思いました。
- ・自分の街とは違う三豊の魅力を知れた。そして三豊の良いところを自分の街へ何か還元できないかという目標ができたような気がした。また、トークセッションで自分の知識力では言語化できない発想を具現化してくれてすっきりしました。
- ・とてもたのしかったです。夢のような時間でした。来年の万博楽しみにしています。
- ・地元の魅力に対して、外部の皆さん、客観的な視点でのご意見で勇気づけられました。皆さんの発想と言葉選びがすばらしいです。
- ・初めて on-line で会う人と一緒にまちづくりを考えていくワークショップが予想できない楽しさがありました。



グループワーク後の発表



発表への講評



オンライン参加者とコミュニケーション



記念撮影

【第5回（奈良県生駒市）】

日時 : 2024年3月10日（日）15:00～17:30
登壇者 : エリア編集長 吉田田タカシさん（トーキョーコーヒー代表）
指出一正（『ソトコト』編集長）

会場 : e. f. t. 生駒校
申込者 : 53名（オフライン27名・オンライン26名）
トーク概要 :

吉田田氏の、アトリエ e. f. t.、まほうの다가しやチロル堂、トーキョーコーヒーといった数々のプロジェクトの紹介を受けて、“遊び”をキーワードにトークが展開。「教育システムを変えるためには大人の常識をアップデートすることが一番の近道。大人には、暮らしを磨くこと、まちを遊ぶことをすすめたい。海外をツアーでまわると、ライブハウスにはおじいちゃんもくる。昔も今もずっと on going で遊んでいる」。まちづくりも同じで、昔は賑わっていたから戻したいと未来の話のはずが過去に戻る話になっているのは、今の面白さを見つけられていないからではないか。大都市でも中山間地域でもない、生駒市というちょうど良いまちの可能性を、会場と一緒に確認する時間となった。

感想より抜粋

- ・自分の周り（同世代の子たち）とはまちの未来について話すことなかったの、いろんな人と価値観の共有ができてよかったからです！
- ・ソトコトの編集長さんが話す言葉が素敵でした。トーキョーコーヒーが万博に関われたら、面白い。
- ・グループワークがとても楽しかったです。親子で参加でき、娘も意見を言えていてうれしそうでした。
- ・万博が身近なものに感じました。もっと町でたのしくすごせるように、自分発信で行動していきたいです。貴重な時間をありがとうございました。理想のまちを考えるワーク、たのしかったです。
- ・万博のイメージが変わりました。日本の良さを伝えるステキな機会だという事を学びました。まち・むらづくりについて、みんなで意見を出し合って考えることが、今まで以上に楽しかったです。



エリア編集長・吉田田さんの講演



グループワークの様子



グループワーク後の発表



記念撮影

1-4. 告知・広報

Web メディア「ソトコトオンライン」

Web メディア「ソトコトオンライン」のトップページにリンクを貼ることで、サイト訪問者の閲覧を促した。また申し込みフォームをページに埋め込み、申し込みへの導線をわかりやすく、気軽に行える環境にした。

ソトコト サスティナビリティ ウェルビーイング 関係人口 地方 人々

Home > 【2/22 (木) 島根県出雲市・オンライン同時開催】大阪・関西万博 日本館×ソトコト「万博未来編集部ローカルツアー2024 with コミュニティ」クラシノオト牧知子さん×指出一正

万博に関わりたい、地域の未来を考えた
若いメンバーを募集します

**万博未来編集部
ローカルツアー
2024 with COMMUNITY**

EXPO FUTURE EDITORIAL DEPARTMENT LOCAL TOUR

【第1回】
島根 2/22 (木) 18:30 ~ 21:00 会場：最勝文化研究所

サスティナビリティ 2024.02.15 (PR)

【2/22 (木) 島根県出雲市・オンライン同時開催】大阪・関西万博 日本館×ソトコト「万博未来編集部ローカルツアー2024 with コミュニティ」クラシノオト牧知子さん×指出一正

ソトコトオンライン編集部

サスティナビリティ 大阪・関西万博 日本館×ソトコト「万博未来編集部ローカルツアー2024 with コミュニティ」 SDGs 地域活性化
最勝所 ローカル

大阪・関西万博 日本館×ソトコト「万博未来編集部ローカルツアー2024 with コミュニティ」開催！

「万博未来編集部ローカルツアー2024 with コミュニティ」は、大阪・関西万博が開催される2025年以降の日本の未来を担う皆さんが、編集部員として性別・肩書などの垣根を越えて集まり、地域の未来を語り合うイベントです。

講座の前半では、地域に根ざした活動を行っている先輩と「地域の未来」について考えるトークセッションを実施。後半では、皆さんのアイデアをもとに未来のまちを考えるワークショップを行い、「つくりたい地域の未来」を形にしていきます（現地／オンライン双方で実施します）。

2/22 (木) 開催の島根会場ではエリア編集長を務めるのは『クラシノオト』の牧知子さん。『ソトコト』編集長・指出一正と一緒に本講座をお届けします。

万博に関わってみたい、地域を盛り上げる仲間が欲しい、地域の未来を真剣に話してみたい、視野を広げたい、そんなあなたのご参加をお待ちしています！

現地参加 お申し込みはこちらから

オンライン参加 お申し込みはこちらから

サスティナブルな未来をつくる
日本オムニチャネル協会は
業界の壁を越えた共創の場を提供しています。

NFT、DAO、メタバース etc.
ソトコトの Web3.0

ソトコト x spoona
日本を代表する一流シェフたちと、
食で地方を盛り上げます！

「ソトコト・ウェルビーイング未来アワード2024」
2024年7月24日(水)開催決定！エントリー募集中

ソトコトSDGsアワード2023
レポートブック(PDF)は
こちらで閲覧、プリントアウト
できます！

ランキング

- 1 千葉県で30番目の道の駅、「グリーンファ...
緑田ゆかり
- 2 複数の駅前に、和歌山県内の魅力呼び寄せ...
- 3 地域の愛と誇りを集めて走る「SL/DLや...
- 4 指出一正のオン・ザ・ロード (第2回) 「...
指出一正
- 5 知るほどハマる「館林の里沼5選」ー北...
Nico

ピックアップ

ウェルビーイング 2024.03.07 (PR)

子育てしやすいまちから誰もが輝ける未来をつくる、明治の「こそ

「万博未来編集部ローカルツアー2024」の告知ページ

ソトコト Facebook・Instagram

事業の対象となる若年層へ周知するため、ソトコト SNS に記事投稿や広告運用をした。出演者や会場にシェアいただくことで、拡散につながった。



1-5. アンケート集計

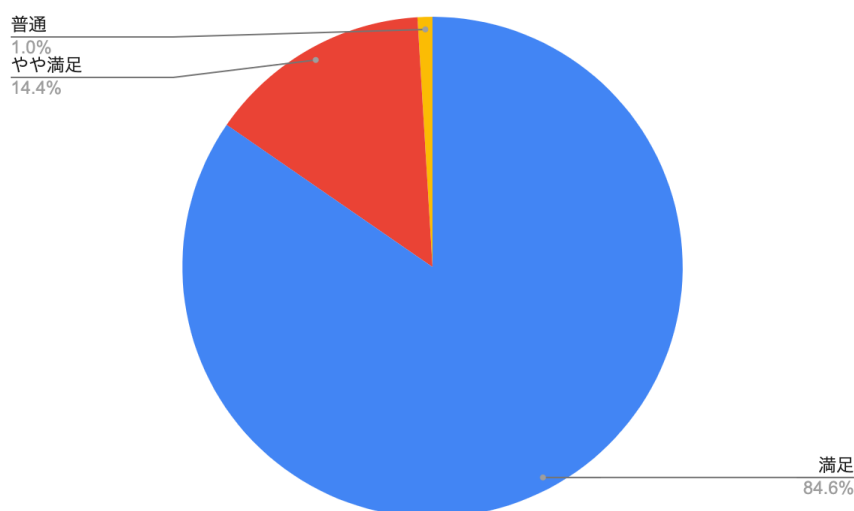
全5回の参加者を対象にアンケートを実施し、結果は以下の通りとなった。

【全体】

- ・イベントの満足度は、全体として高かった。

<満足度>

- (1) 満足 84.6% (2) やや満足 14.4% (3) 普通 1.0% (4) やや不満 0%
(5) 不満 0%



- ・参加理由には、地域づくりへの関心や、登壇者への興味が多く挙げられた。

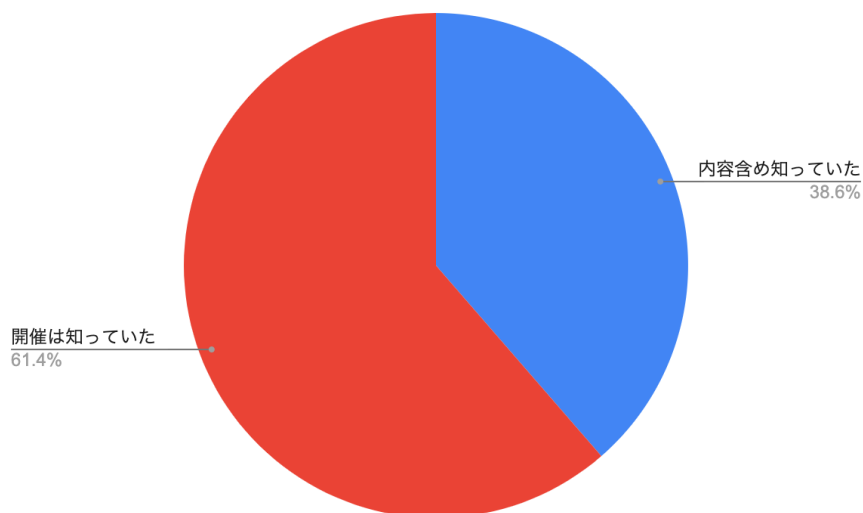
<参加理由>

	項目	回答数
(1)	大阪・関西万博に関わりたかった	15
(2)	地域づくりに関心があった	77
(3)	社会課題・地域課題に興味があった	38
(4)	地域の未来について語り合う機会が欲しかった	28
(5)	登壇者（エリア編集長）の話す内容に興味があった	64
(6)	登壇者（ソトコト編集長）の話す内容に興味があった	67
(7)	多世代での交流に興味があった	14
(8)	価値観が同じ人とつながりたかった	11
(9)	グループワークの内容に興味があった	16
(10)	その他	6

- ・万博については認知されているが、時期や内容まで含め知っているという回答は36.8%に留まった。日本館については、34%が全く知らなかったと回答した。

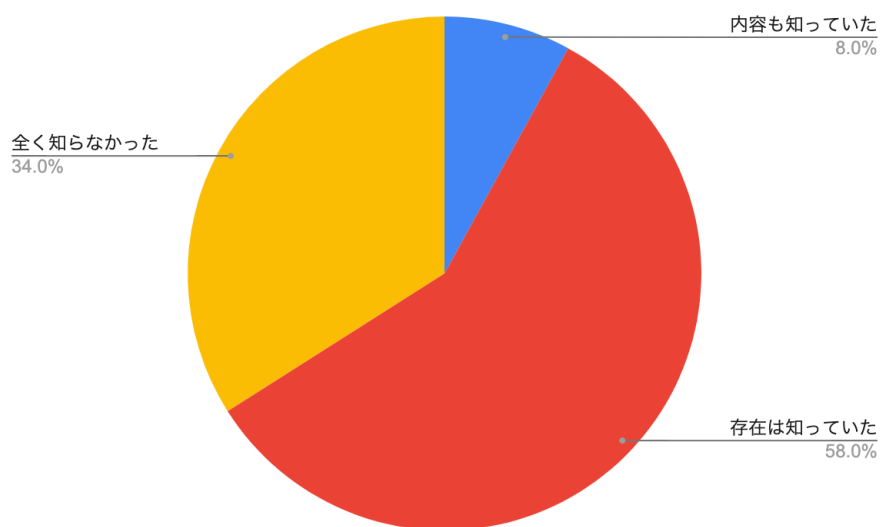
<万博認知度>

内容含め知っていた 38.6% 開催は知っていた 61.4%



<日本館認知度>

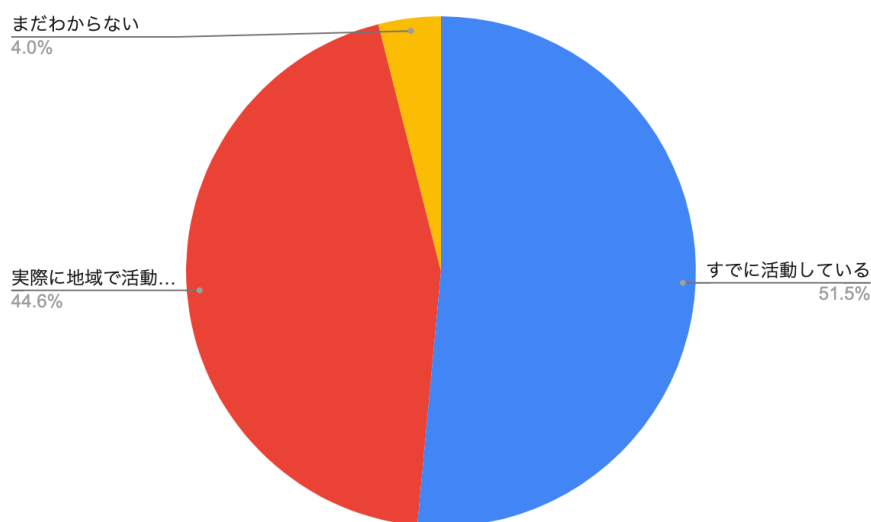
内容も知っていた 8% 存在は知っていた 58% 全く知らなかった 34%



・地域活動をすでに行っている参加者が 51.5%と過半数を超えていたが、実際に地域で活動してみたいという回答も 44.6%と、多くの参加者の地域活動へのモチベーションアップにつながった。

<地域活動への態度変容>

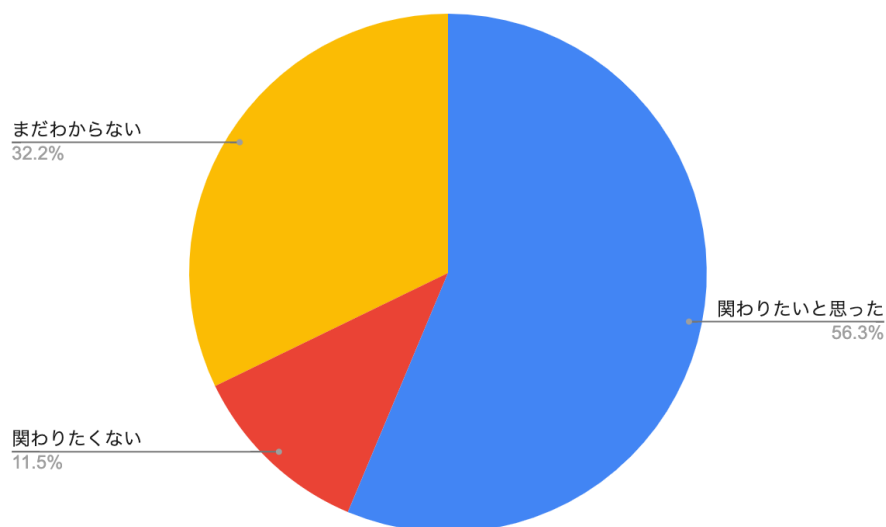
すでに活動している 51.5% 実際に地域で活動してみたいと思った 44.6% まだわからない 4%



・万博については、イベント参加により過半数の 56.3%が関心が高まったとする一方で、32.2%がまだわからないと回答している。

<万博への態度変容>

関わりたいと思った 56.3% 関わりたくない 11.5% まだわからない 32.2%



以上より、イベントを通して、万博・日本館のコンセプトの浸透を図ることで、参加者の万博に対する認知や態度に変容が見られた。

同時に、地域のプレーヤーとつながり、地域の未来を考える場・時間を持つことで、地域での活動へのモチベーションが向上し、万博のコンセプトとも関連したプロジェクトが各地で自走的に行われる機運の醸成につながったと考えられる。

以下は、会場ごとの万博に対する個別意見の抜粋。

【島根会場】

万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」、日本館のコンセプト「いのちと、いのちの、あいだに-Between Lives-」について、期待すること・提案したいことがあれば、教えてください。

- ・テーマにあるとおり「命と命」のつながりをどのように表現されるのか、楽しみにしたいです。
- ・首都圏以外の地方が元気になるような内容を期待している。
- ・「いのち輝く」ってどういうことだろうと楽しみに思います。
- ・インパクトのあるものを期待しています！
- ・最近、日本の発信力が低下している気がしています。日本人が北欧のライフスタイルに憧れるように、日本発のライフスタイルが世界に発信できる場になってほしいなと思います。

今回のイベントに参加して、万博に関わりたいと思いましたか？
＜関わりたいと思ったと回答した方＞

- ・共感を通したグローバルなまちづくりのビジョン共有が出来そうだから。
- ・もっと広い未来を見たいと思いました。
- ・行ってみたいと思いました！そして、みんなにひろめたい！
- ・人と関わりたい、身体を動かしたい。
- ・キャストの皆様とより良い時間を共有したい。
- ・命輝く何かの共創プロジェクトに関わりたいなと思いました。特に教育やスポーツの分野での関わり代があれば嬉しいです。

【山形会場 】

万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」、日本館のコンセプト「いのちと、いのちの、あいだに-Between Lives-」について、期待すること・提案したいことがあれば、教えてください。

- ・日本らしさの未来をぜひ世界へ発信してもらいたい。
- ・いのちの循環というテーマ、人と人のつながりや、人だけではない存在との共存について考えるきっかけになればいいと思う。
- ・循環ということで日本館を見ることで人が日本中の地域に行ける内容だいいと思いました。
- ・質素儉約。
- ・日本全国の発酵の違いについて世界に発信してほしい。材料が同じでも麴、酵母によって味や栄養価に違いはあるのか？など。
- ・人と人が集える空間、行けない人も楽しめるネットワーク上の取り組み。
- ・笑顔咲く日本、人にやさしくなれる日本を世界に発信して欲しい。
- ・物や食べもの（米の一粒にも）にも神が宿っているという日本的な考え方もいのちを大切にすることにつながるのではないかと考えました。
- ・バリアフリーな会場にしていきたいと思います。
- ・地球は生き物・生物で成り立っていて、その中に人間という生物もいる、人間優位に考えてきてしまった事を顧みることが出来る場所になるのではないかと、お話を聞いてわくわくしました。日本の伝統的な刺繍である刺し子という、ものがない時代に知恵と工夫でクリエイティブなものづくりをしてきた先人たちの想いを大切にすることを展開しているため、アップサイクルのお話や循環の体験など、とてもしみじみ日本館になると確信しました。ぜひ、刺し子刺繍・ものづくり、日本の伝統工芸・民藝にも光を当てていただけたらと僥越ながら思っています。
- ・エシカルアクションプロジェクトというものがあるかと思います。更に成長を目指すなら、そうしたプロジェクトのなかに、エシカル消費だけでなく、市民に向けたエシカル投資を学びに取り入れることで、差別化をはかれると考えます。市民に消費を押し付けるだけでは格差が開くけれど、投資ならば単なる儲けではなく、仲間づくりや生き甲斐づくり、そして中間層を豊かに成長させるものであり、環境配慮と成長の両立をめざすゼブラ企業の育成が国家戦略になっていますが、実現には市民参画のアイデアが有効だと思います。かんたん、楽しい、得するは、市民の呼びかけに最適だと思います。

今回のイベントに参加して、万博に関わりたいと思いましたか？

＜関わりたいと思ったと回答した方＞

- ・内容がどうなるのか気になるから。
- ・地域の未来に関わることがしたい。
- ・これといった目的はないが、遊びに行ってみたい。
- ・やまがた、おきたま、アルカディアエリアを万博において発信したいと思いました。
- ・トークセッションからグループワークまで、明るい未来を感じることができ楽しかった。

- ・いのち輝く未来社会のデザインというテーマに福祉の参画は必須だと思っています。自分は商品の作り手を障がいのある方々と一緒に作り、アイデアや工夫で素敵に楽しくものづくりが出来る事を見ていただくことを目標に活動しており、彼ら彼女たちを来場者ではなく出展者として連れて行きたい！というのが万博に関わりたいという今の原動力です。
- ・起業支援・投資教育、発表会やコンテスト、リスクリング・リカレント教育に期待したい。
- ・内容まではイメージできていない。

【栃木会場】

万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」、日本館のコンセプト「いのちと、いのちの、あいだに-Between Lives-」について、期待すること・提案したいことがあれば、教えてください。

- ・日本人も含めて文化や歴史について見つめ直す機会にしたいです。
- ・革新と伝統をバランス良く織り込んでほしい。
- ・地方創生もいのちとつながりがあると思うので一部テーマにしたら良いのではないかな。
- ・エネルギー問題への提案。
- ・マルチスピーシーズとリジェネラティブな未来のあり方を示していただく事を期待。
- ・人も生き物も命は平等であると感じられるようなもの。
- ・今回の中でも何度かお話しがありましたが、土地や地域資源、生体系との共生というのは、なかなか堅苦しく、面倒くさいイメージに受け取られていると思います。その点を楽しく伝えるようなところがあると、いいのかなと思います。持続可能にしていくためには多くの人を巻き込んでいく必要があると思うので、ぜひこの機会にわくわくを伝えて行ってほしいです。

【関わりたいと思ったと回答した方】

- ・EXPO 酒場の活動に参加しておりました。
- ・まずは参加者として。

【香川会場】

万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」、日本館のコンセプト「いのちと、いのちの、あいだに-Between Lives-」について、期待すること・提案したいことがあれば、教えてください。

- ・テクノロジーは未来を救えるのか気になります。
- ・あいまいさの魅力を発信してほしいです。
- ・子どもが暮らしやすい未来。
- ・SDGs とか持続可能とか最近言われはじめた言葉だけど実は昔の日本からあったのではないかと思いました。
- ・終わりを理解しつつ、つながりのテーマにしていること刺激をいただきました。
- ・まずは日本のひとたちが未来に夢を感じとれる日本館の内容であってほしいです。

＜関わりたいと思ったと回答した方＞

- ・まちづくり関係。
- ・日本の今、これからを多くのひとたちと考えたい。

【奈良会場】

万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」、日本館のコンセプト「いのちと、いのちの、あいだに-Between Lives-」について、期待すること・提案したいことがあれば、教えてください。

- ・ みんなで価値観を感じる時間など。米粉グルテンフリーな生活、竹など日本ならではのものなど。来場者それぞれの感性が活かされる場、即興など。
- ・ 日本人だから気付けること、大切にしてきたこと、海外の方にアピールできるようなものをお願いしたいです！
- ・ ただパビリオンを見るだけでなく、コミュニケーションが双方に生まれるような仕掛け。
- ・ 日本の良さを発信してもらえる日本館となっている事を楽しみにしています。
- ・ 先進国で自死する子が多い中、いのちを大事にすること、つながりを大事にする事の発信を期待。
- ・ 「いのち輝く」というワードはステキだなあと感じています。“いのち輝く”状態ってどんな状態なのかイマイチわからない部分もあります。
- ・ 子供も大人もたのしめる空間を期待します。
- ・ 地球上のいろんな人と気軽に関われる空間であってほしい。
- ・ 自然があること。
- ・ シンクロやフィギュアのオリンピックの日本選手が日本らしさを強調して柔道着や着物のデザインの衣装で出場するのがとてもダサく、日本人としてなんとなく恥ずかしさを感じていました。日本らしさを無理やり当てはめるのではなく、未来に向けて、今の日本のよいところをさりげなく集められることを期待しています。
- ・ わかりにくいものに美しさや価値を感じる事が日本人が本来得意としているという日本本来の価値を世界に発信できたらいいなあと期待します！
- ・ 子供たちの記憶にのこり、これからに役立つ機会になってほしい。

＜関わりたいと思ったと回答した方＞

- ・ 一般人が大きなイベントに入ったらどうなるのか？入れるものなのか？意見をどのように聞いてもらえるのか？等、イベントが作り上がるまでのプロセスに興味があります。
- ・ ボランティアスタッフなどをしてみたい。
- ・ 地域の想いを発信したい。
- ・ 小学生の子どもがいるので、子どもたちを案内したい。
- ・ 楽しそうなので、遠くからでも関われることがあれば参加したい。

1-6. 業務実施の成果と課題

本業務においては、上述のアンケート結果の通り、参加者の万博に対する認知や態度に変容が見られた。同時に、地域のプレーヤーとつながり、地域の未来を考える場・時間を持つことで、地域での活動へのモチベーションが向上し、万博のコンセプトとも関連したプロジェクトが各地で自走的に行われる機運の醸成につながったと考えられる。

要因を以下に記す。

【日程・開催地】

- ・各エリア編集長と事前にオンラインにて打ち合わせした上で実施。目的や主旨を理解いただいた上で引き受けていただくことができた。
- ・演者の都合で5会場のうち、3会場が平日夜、2会場が日曜昼の開催となった。2時間半という実施時間については一部短いといった意見もあったが、企画の意図は十分に伝えられたと考えられる。

【広報】

- ・全5回を2/22-3/10までという3週間強の日程で実施することとなり、十分に広報の時間を取ることができなかったが、広告運用の効率化やエリア編集長のご協力により、各会場の集客につなげることができた。
- ・奈良会場では、エリア編集長の吉田田さんの紹介で、生駒市の公式 SNS で紹介いただいた。会場の各行政で足並みをそろえるのは難しくはあるが、今後も会場の都道府県や市区町村に情報共有・広報依頼などできるとよい。
- ・どうしても当日キャンセルは発生するので（特にオンライン）、定員の設定については多めに設定しておく必要がある。

【内容】

- ・アンケートの結果からも満足いく結果となったことが分かる。
- ・エリア編集長の話やトークセッションも全体的に評価が高かった。
- ・ワークでのまちづくりは各地域性が反映されたものになった。このワークは各地域で意見交換の際に良いツールになると考えられる。
- ・オフラインとオンラインのハイブリッド開催となり、配信や音響の準備が必要となった。一部音声で不具合などはあったが、おおむね問題なく実施することができた。
- ・オンラインの参加者のフォロー（特にワークショップ）は、オフラインより手厚くする必要があった。
- ・参加者にはPC持参を呼びかけた。持参なしの方はグループ内でPCを共用しながら、ワークを実施してもらったが、グループ内のコミュニケーションの促進にもなり良かった。
- ・wifi環境が必須のため、各会場の状況を確認しつつ、バックアップとしてレンタルwifiも準備しておいた。5会場のwifi環境は基本的に良好で、問題は発生しなかった。

(2) 全国の市区町村における特徴的な持続可能な取り組みの事例収集 及び機運醸成プロジェクトの自走に向けた仕組み作りの提案

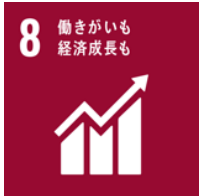
2_1. 事例収集

今年度実施した5カ所では、日本館の来場者体験と親和性の高い循環型社会の実現に向けた特徴的な取り組みが見られた、取り組みの概要等について、以下にまとめる。

	事例名	概要
1	島根県出雲市 醗酵文化研究所 牧知子さん (クラシノオト代表) 日本館コンセプトとの 合致:「はかなく小さな 生き物」 SDGs との合致: 	・醗酵文化研究所は、『ヒトとヒトの醗酵(化学変化)を楽しむ』をコンセプトに、レンタルスペースとして、様々なイベントやワークショップを開催しており、ここから沢山の「醗酵(化学変化)」が起こっている。人やまちのコミュニティを考えると同時に、島根県の醗酵文化を発信する場として成立している。 ・牧氏は、島根県出雲市生まれで、大学進学のため上京。フリーペーパー全盛期に企画営業として日々働き、消耗している時に、偶然島根県の関係人口を醸成するための講座である「しまコトアカデミー」と出会い、受講した。これをきっかけに「しまコトアカデミー」の運営側に入ることになり、出産もあって、島根へUターンした。今は寂しくなってしまったが、出雲市の中で唯一アーケードのある商店街は、造り酒屋もあり、「醗酵」の文化が根付いている場所でもある。ここに、もう一度「醗酵」をキーワードに町家文化の再興をしていきたいと考え、「醗酵文化研究所」の運営を開始した。 ・レンタルスペースの運営にあたっては、例えば若い人だけ、高齢者だけなど利用が対象の場所であると誤解されないよう、対象者を限定しないことに配慮している。 

		 参考 URL : 醗酵文化研究所 https://www.hakkoubunka.com/
2	山形県長井市 長沼酒造 長沼真知子さん (長沼合名会社) 日本館コンセプトとの 合致:「循環を見据え たものづくり」 SDGs との合致: 	・長沼酒造は、最上川舟運で栄えた長井市中心部で、1916 年から地元の水にこだわった酒造りを続けている。旧来の手法を守り続け、酒蔵や店舗は、国登録有形文化財にも指定されている。杜氏は、東京農大出身の女性で、長井市の教育委員、長井市振興審議会委員、観光振興計画策定委員なども務め、まちのコミュニティのハブにもなっている。 ・長井氏はこの酒造で杜氏を務める。この当酒蔵が実家で、4 人姉妹の末っ子だったが、小さいころから酒造りの手伝いをしていく中で、高校時代には蔵を継ぐことを決めていた。大学進学の際に東京で暮らし、改めて長井市の恵まれた水環境の希少性に気づかされた。当時、日本で唯一の醸造を学べる科を有する大学で学んだことで得た、日本酒以外の発酵に携わる人的なネットワークが財産になっている。 ・地域の魅力を積極的に発信するやまがたアルカディア観光局とも関係性が強く、ローカルプロジェクトのリーダーの 1 人としてご活躍されている。 

		 参考 URL: 長沼合名会社 https://soumura.com/
3	栃木県宇都宮市 ビルトザリガニ 中村周さん （ビルトザリガニ代表） 日本館コンセプトとの合致:「はかなく小さな生き物」 SDGs との合致: 	・「ビルトザリガニまちづくり合同会社」を立ち上げ、中心部の二荒山神社近くの釜川沿いに位置する築 50 年で廃墟だった「ゴールドコレクションビル(GCB)」を、クリエイターの拠点として再生。少しずつリノベーションを進め、多様なクリエイターが集まる場所となっている。釜川の生態系の保全、水循環を考えるベースにもなっていて、都市と自然の融合を SDGs の視点で行なっている。 ・中村氏は東京出身で、宇都宮大学の建築学科に進学し、大学・大学院時代の研究テーマとして、鎌川流域を選び、活動を展開。現在は、東京にある建築会社で働きながら、宇都宮にも通い、KAMAGAWA POCKET、釜川から育む会、釜クリ協議会など各種地域活動を実践するプロジェクトの代表を務める。 ・釜川から育む会は 2023 年に一般社団法人化し、各種助成金などの資金も得て、エリアの再開発など、活動を拡大する予定。 

		 参考 URL : ビルトザリガニ https://b-z.co.jp/
4	香川県三豊市 瀬戸内ビレッジ株式会社 古田秘馬さん (瀬戸内ビレッジ株式会社代表取締役社長) 日本館コンセプトとの合致:「循環を見据えたものづくり」 SDGs との合致: 	・地元で 100 年続く企業や、地域に飛び込んで新たに事業を始めた企業などさまざまなバックグラウンドを持つ 11 社が出資メンバーとなり、一棟貸し宿「URASHIMA VILLAGE」を開業。同様に、地域に必要な事業を出資して自分たちで作っていくというプロジェクトが複数始動しており、「働きがいも経済成長も」をリジットに取り組む、動きのある場所となっている。 ・古田氏は、東京都出身で。東京・丸の内「丸の内朝大学」などの数多くの地域プロデュース・企業ブランディングなどを手がけるプロジェクトデザイナー。農業実験レストラン「六本木農園」や日本の食文化を次世代に継承する“三世代で学べる”レストラン「むかしみらいごはん」など、都市と地域、世代などを繋ぐ仕組みづくりを行っている。 ・東日本大震災の復興支援に原点を持つ、次世代農業経営者育成プログラム「麒麟地域創生トレーニングセンタープロジェクト」の運営者として、2017 年に三豊市を訪問。自然資産、人的資産との出会いをきっかけで、この地域での活動を開始した。「瀬戸内暮らしの大学」をはじめ、数々のローカルプロジェクトのキーパーソンとなっている。

		  参考 URL : URASHIMA VILLAGE https://urashimavillage.com/
5	奈良県生駒市 トーキョーコーヒー 吉田田タカシさん (トーキョーコーヒー代表) 日本館コンセプトとの合致:「次の命へのリレー」 SDGs との合致: 	・トーキョーコーヒーは、登校拒否のアナグラム(文字を入れ替えてつくる言葉遊び)で、全国で学校を長期欠席する約 41 万人の子どもたちのアクションを受けた、「問題は子どもの不登校ではなく、大人の無理解」という視点から教育を考え、学ぶムーブメント。 ・吉田田氏は、大阪府出身。スカロックバンド DOBERMAN(ドーベルマン)のボーカルとして活躍すると同時に、1988 年に「つくるを通して生きるを学ぶ」をテーマにしたアートスクール、「アトリエ e.f.t.」を創業するなど、教育事業にも長年携わっている。現在は奈良県生駒市に居住、地域ぐるみでの子育てを実践している。 ・「トーキョーコーヒー」は、コンセプトや手法をあえて提示せず、共感する各地のプレーヤーがそれぞれ主体的に活動を展開していくかたちで、全国 400 力所以上へと広がった。

		  参考 URL : トーキョーコーヒー https://tkcf-tokyocoffee.com/
--	--	---

以上の地域では、地域にプレイヤーが複数出てきていること、場の出現によりプレイヤーがつながり始めていること、場の設定にあいまいさや余白を残す工夫（対象者を限定しない・役割を固定しない・計画性に頼りすぎない・関係性を重層的につくる・コンセプトを提示しない）が見られることが共通しており、地域での取り組みを持続可能にする土壌となっていると考えられる。

2_2. 機運醸成プロジェクトの自走に向けた仕組み作りの提案

【ヒアリング】

5 事例のうち、「トーキョーコーヒー」のプロジェクトについて、イベント実施後に別途時間を取り、エリア編集長と有志のメンバーにヒアリングを実施した。ヒアリング内容は以下のとおり。

① 循環型社会の実現に向けた取り組みの概要

「トーキョーコーヒー」は、登校拒否のアナグラム（文字を入れ替えてつくる言葉遊び）で、全国で学校を長期欠席する約 41 万人の子どもたちのアクションを受けた、「問題は子どもの不登校ではなく、大人の無理解」という視点から教育を考え、学ぶムーブメント。2022 年 8 月に立ち上げた。手法はあえて詳細には提示せず、“集まって何かを一緒につくること”を推奨しており、拠点を設置する主催者のため、ライセンス制度を導入している。年に 1 回、主催者などが集まるカンファレンスを実施。カンファレンスでは、ワークショップも行われ、ものづくりを通して心がつながる過程を体感する。月に 1 回程度実施するオンラインサロン「コーヒーテーブル」は、学びや交流を目的とし、誰でも無料で参加できる。2024 年 3 月現在、拠点数は 400 を超えた。

② 当該取り組みを行うに至った経緯

1998 年に「つくるを通して生きるを学ぶ」をテーマにしたアートスクール、「アトリエ e. f. t.」を創業した。フランチャイズ制にしてほしいという声が全国から届いていたが、子どもたちと接するための独自のメソッドが必要で、全国に広げるのは簡単ではないと判断し、踏み出せなかった。新型コロナウイルス蔓延時、息苦しい社会に対し何かできないかと、「『MITERI』（吉田田氏が管理する古民家）でリノベーションを楽しみませんか？」と SNS で投げかけたところ、大勢の大人たちが集まった。リノベーションを続けるうち、不登校の傾向にある子どもたちが、1 人、2 人と参加するようになった。ただただ楽しむ大人を見て、子どもたちが安心して主体性を発揮していく風景から、このような環境が子どもたちにとって最高だということに気づいた。教育の専門性を必要とせずとも実現できる場の形として、「トーキョーコーヒー」を創設するに至った。

③ 今後の展望

正しいを押し付けていくことは文化として根付かない、「トーキョーコーヒー」はそれぞれが見えている景色を合わせていくという世界観で広がってきたので、一旦 500 拠点という目標を掲げて活動しているが、30 年後は、それぞれが暮らしの主体を取り戻す活動として、例えばボーイスカウトのように、誰が作ったかわからないものとして、一人歩きしていったほしいと考えている。

【自走に向けた提案】

「トーキョーコーヒー」は、場の設定にあいまいさや余白を残す工夫を施すことで、2年弱で、400ヶ所の拠点が自走するまでに広がった。今後も地域で自発的に万博のテーマと親和性の高い取り組みが続いていくためには、こういった「場」を誰が、どうやって仕掛けていくかが重要になる。

5事例でも見てきたように、日本の各地域で、複数のローカルプレーヤーが出てきているが、実は近い興味関心、活動分野を有する彼ら・彼女らでさえ、お互いに接点がないというのが実情である。

今回の島根会場のワークショップからは「人に会いたかったら井戸端へ」というアイデアが提起された。水をキーワードとしたまちづくり、自然と人が集まりたくなるような”井戸端”をつくっていくというコンセプトで、参加者の賛同を集めた。イベント後に有志でプロジェクトとして具体化させ、島根県、出雲市との協働も視野に入れた活動を開始している（協力依頼をいただき、サポートを予定）。



このように、全国のローカルプレーヤーの信頼を得て、彼ら・彼女たちとの接点を有するからこそ、全国のローカルプレーヤーたちの“あいだ”に入って、彼らが“あいまい”に集まる場を実現することができると考える。

あいまいさや余白を残す工夫としては、対象者を限定しない、役割を固定しない、計画性に頼りすぎない、関係性を重層的につくる、手法を決め切らないが考えられるが、こういった措置を織り込んだ「場」を提案したい（全国版「井戸端カンファレンス」（仮））。「場」は、できれば、オフラインであることが望ましいが、今回のワークショップにおいてはオンラインでの参加者からもオフライン参加に劣らない積極的な関与を頂く事ができたとのことご意見を頂けたことも踏まえ、オンラインでの実施も可能であると考えます。

こういった「場」の実現により、複数のプレイヤーがつながることで、お互いに影響を与え合いながら、ローカルプロジェクトとして根付いていくことに資すると考える。総合商社としてさまざまな事業分野に対応でき、全国へ幅広く流通機能を展開し、地域に根差した SDGs 企業活動を行っているからこそ有するネットワークを活用し、ローカルプレイヤーを多角的に支援していきたい（例：企業とのコラボレーション仲介・イベントなどへの自社製品の提供・オンラインショップなどを通じた商材の紹介など）